

マイケル  
ダグラス



キャスリーン  
ターナー

ダニー  
デビート

家もベッドもまっ2ツ  
ローズ夫妻が  
パデに繰りひろげる  
離婚戦争!

THE WAR OF THE ROSES

# ローズ家の戦争

20世紀フォックス提供 ■ グレイシー・フィルム製作 ■ ダニー・デビート・フィルム  
マイケル・ダグラス ■ キャスリーン・ターナー ■ ダニー・デビート ■ G.D.スプラドリン  
音楽 テイビッド・ニューマン ■ 編集 リンジー・クリングマン A.C.E ■ プロダクション・デザイン アイダ・ランダム ■ 撮影監督 スティーブン・H・プラム A.S.C  
製作総指揮 ボリー・プラット/ダグ・クレイボーン ■ 共同製作・脚本 マイケル・リズン ■ 原作 ウォーレン・アドラー (角川文庫刊)  
製作 ジェームズ・L・フルックス/アーノン・ミルチャン ■ 監督 ダニー・デビート (カラー作品)  

©1989 TWENTIETH CENTURY FOX FILM CORPORATION

# ローズ家の戦争

## スタッフ

監督……………ダニー・デビート  
 脚本……………マイケル・リースン  
 製作……………ジェームズ・L・ブルックス  
                   アーノン・ミルチャン  
 原作……………ウォーレン・アドラー(角川文庫刊)  
 製作総指揮……………ポリー・ブラット  
                   ダグ・クレイボーン  
 共同製作……………マイケル・リースン  
 撮影監督……………スティーブ・H・ブラム、ASC  
 プロダクション・デザイン……………アイダ・ランダム  
 音楽……………デイビッド・ニューマン

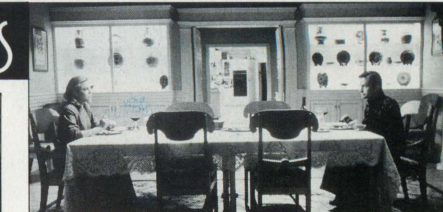
## キャスト

オリバー・ローズ……………マイケル・ダグラス  
 バーバラ・ローズ……………キャスリーン・ターナー  
 ギャビン・アマート……………ダニー・デビート  
 スーザン……………マリアヌ・ゼーゲブレイト  
 ジョッシュ=17才……………ショーン・アスティン  
 ハリー・サーモント……………G.D.スプラリン

(上映時間=1時間56分)



## THE WAR OF THE ROSES



☆'90年代幕あけ最初の全米No.1大ヒット!!『クレイマー、クレイマー』『危険な情事』を遥かに超えた衝撃とセンセーション!!

'90年代幕あけとなった全米ニュー・イヤーズ・シーズンで、『バック・トゥ・ザ・フューチャー2』を追いあげて、No.1の大ヒットになった話題作がやってきた。

'90年代の男女関係、結婚、愛のゆくえを先取りした映画と、マスコミは大特集を組み、『クレイマー、クレイマー』『危険な情事』を遥かに超えた社会現象を世界に巻き起こしている衝撃映画だ。

『危険な情事』、アカデミー主演男優賞受賞の『ウォール街』をへて『ブラック・レイン』と大ヒット作が続き、人気・実力とも、いまやスーパー・スターになったマイケル・ダグラスが演じるのは、ハーバート大学を卒業し、若くしてワシントンの法律事務所の重役になり、エリートの出世階段を昇りつめた男オリバー・ローズ。

彼は学生時代に出会って結婚したグラマー美人の妻バーバラ(『ロマンシング・ストーン/秘宝の谷』でマイケルと名コンビのキャスリーン・ターナー)と、何一つ不満のない、みちたりの結婚生活を送ってきた。2人の男と女の子にも恵まれ、車も、そして夢にまで描いた豪邸も、ついに手にいれた。バーバラは、家具、インテリアにも凝りに凝り、骨とう、陶器のコレクションに熱中し、情熱を傾けて家の隅から隅まで丹念に気を配った。

☆おかしくて、激しくて、壮烈——バラ色の結婚生活の向う側に待ちうける、かつて描かれたことのない愛のゆくえ!!

バーバラは仕事を持ち、経済的にも自立できる力を持ってきた。育児の手もはなれ、すべてが片づき、みたされた時に心が空虚になる倦怠期の妻の心理が、実感としてわかるようになった。

オリバーは、仕事一筋のモーレツ人生で家のなかのことや、妻と子供のことは何一つ考えてくれない。結婚17年が経っていたバーバラは、ある日ベッドでセックスを求める夫を拒否し、元体操選手の特技を発揮し彼を足じめにした。それがもとでオリバーは内臓に異変を起こし病院に入院したが、バーバラは病院に見舞いにも行かなかった。「もし夫が死んだら、と想像したら、とてもこわかったけど、自由を感じたの、重いものが消えたように…。それ以来、夫のイビキから言葉つかい、彼の存在すべてがうとましくなり、ついに離婚を申しこんだ。

バーバラは離婚にあたって特別な慰謝料は請求しなかった。ただ彼女が情熱のすべてを傾けた“家”と“家具調度品”のすべてが欲しいと要求した。弁護士にいわせれば寛大な条件だという。だがオリバーにとっても“家は、自分のアイデンティティ(自己証明)であり、「意地でも渡せない。絶対にやらん!」と宣戦布告した。かくて、過去のどんな映画も描いたことのない壮絶な離婚戦争が、くりひろげられることになる。

☆わたしが欲しいのは愛でもお金でもない。“家”だけ——ついに、ここまできた男と女のバラバラ戦争!!  
 全米マスコミは絶賛!!

弁護士を立て、すさまじいまでの、おたがいにも一歩もゆずれない離婚戦争は、家のなかには赤線がバーバラの領域、黄線がオリバーの領域とわけられ、グリーンが中立地帯。台所は時間をきめて交代で使うと、まるで戦場のような状態を呈してきた。

バーバラがサウナ風呂にオリバーを閉じこめ、半殺しにしたのは序の口。彼女が料理評論家を招いたパーティーはメチャメチャにされ、車と車のぶつけあいの戦争になり、手あたりしだい部屋の装飾品を投げあう、すさまじい乱戦になった。そしてアッと驚く衝撃のラストが……。

弁護士役で共演するダニー・デビートが監督もかねており、『ロマンシング・ストーン』『ツイズ』でも喜劇俳優として才能ゆたかな彼が、爆笑をそえながら、プロレスリングのような激しいアクション、時には戦慄的な心理戦のこわさで震えあがらせ、まったく新しいタイプの傑作映画を誕生させた。

“タイム”誌は『この映画がすばらしいのは、ローズ夫妻が、自分たちの直面した状況をうやむやにしなかったのと同じように、映画作家たちが、結婚に対する自分たちの見解を、妥協して、瞬時にしなかったことだ。われわれを笑わせ恐怖させながらも、結婚について真剣に考えさせる』と絶賛。

“ニューアーク・スター・レジャー”誌の記者は、『朝の最初のコーヒーのように、必ずや観客をはっと目ざめさせる。笑いも痛烈で、にがみもしみる傑作』と書き、全米は騒然たる話題に湧いている。

## 近日特別ロードショー

\*ペア・チケット ¥2,300<2名様¥3,200の処>  
 \*特別鑑賞券 <一般 ¥1,300/学生 ¥1,100> 発売中!

伊勢丹前・シネタウン

新宿スカラ座

03  
 (351)  
 3127